

浪江で農業を始めませんか？

就農に関する相談を受け付けています



浪江町農林水産課では、町内での新規就農に関する相談を随時受け付けています。就農前の研修先や各種支援制度についてもご紹介することができます。就農イベントにも積極的に参加していますので、ぜひお気軽にお問い合わせください！

町の就農に関する
情報はこちら福島県で農業しよう！
ふくのう相双就農
ポータルサイト浪江フラワープロジェクトの
最新情報をホームページで！

これまでの花通信やアーカイブ動画を公開中！

<https://www.namie-flower.jp>Facebookも
チェック

浪江町 農林水産課

〒979-1592 福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2

TEL: 0240-34-0245

<https://www.town.namie.fukushima.jp>

なみえ花通信

浪江の花作りと農業の最新情報をお届け！



“浪江町に広がる“新しい農業”

多様な作物と人の交流が未来を耕す!

いま、福島県浪江町では“新しい農業”が力強く芽吹きはじめています。浪江町では毎年、定期的な『農業者交流会』を開催し、担い手同士のつながりを育みながら、新たな農業のかたちを共有しています。2025年度も交流会が2回開かれ、町内で新たに農業を始めた営農者や農業法人を中心に、多くの生産者が集まりました。

会場には、浪江町で収穫された米など、浪江町産の農作物を使った、地元ならではの料理が彩りを添えます。豊かな香りに包まれながら、参加者同士の会話も自然と弾み、交流の輪が広がっていきました。水稲をはじめ、小麦やライ麦、玉ねぎ、ネギ、小豆、さらには酪農や飼料作物、多彩な野菜栽培まで。浪江町では、これまでにない多様な農業が新しいスタイルで次々と動き出しています。この町で育っているのは、作物だけではなく、農業を通じて人と人、人と地域がつながり、未来へと続く関係が、着実に根を張りはじめています。



浪江町産の米や野菜などを使ったお料理に、参加者たちの笑顔が溢れます



「これだけ多様な農業が浪江町で始まっていることに驚きました。」と語る参加者も



自動搾乳機などの最新設備は、バイオガスプラントによるふん尿処理によってバイオガスを生産。特別なガス発電機で牧場の電力として利用します



約25ヘクタールという広大な敷地に最新設備がずらりと並ぶ

Dairy Farming
News
Mar.2026

浪江町に誕生する “未来の牧場”

いよいよ2026年4月上旬に開所する、浪江町棚塩地区で整備が進む大規模畜産施設「Shine Coast Farm(シャインコーストファーム)」は、約25ヘクタールという広大な敷地で、乳牛など約2,300頭を飼育する国内最大級のスマート酪農施設です。搾乳や飼育管理にはロボット技術など最先端のシステムが導入され、これからの酪農の姿を体感できる施設となっています。

このファームの特徴は、単なる酪農施設ではないこと。教育・実習・研究開発の機能も併設され、国内外の大学とも連携しながら、酪農技術の研究や次世代の人材育成にも取り組んでいく予定です。

地域の産業としての酪農を支えるだけでなく、新しい知識や技術が生まれる拠点としても大きな役割を担う施設は、地域産業の未来を切り開く大きなプロジェクトとして期待が高まっています。



首都圏と浪江町を“農”で つなぐ新しいスタイル

首都圏と浪江町を“農”でつなぐ新しいスタイルを実践している株式会社浪江の大地の寺田真二郎さん。元金融業界に勤める中で、これからの農業の可能性に注目し、ゼロから農業の道に飛び込みました。生産から流通、さらには学びや農業交流まで幅広い取り組みを進める中、農業視察ツアーをきっかけに浪江町の可能性に着目し、同地で農業法人を設立しました。寺田さんは「農業に適した気候はもちろん、農地の確保から手厚い補助制度まで、浪江町役場のサポートは本当に大きかったです。お世辞抜きで、浪江町でなければ実現は難しかったと思います」と語ります。現在は、浪江町産の野菜を首都圏へ出荷するほか、首都圏の大学生を対象とした週末農業体験の受け入れ、子ども向けの「農育」や「蕎麦打ち体験」など、インバウンドも見据えた取り組みを展開しています。株式会社 浪江の大地が描く新しい農業のかたちに、今後も注目が集まります。



農業をゼロから始めた寺田さんは、「浪江町じゃなかったら出来ない」と語ります



野菜の直売はもちろん、農業体験などさまざまな取り組みを進めています



ベトナムの花作りの現場を視察する Jinふる～るさん



「圃場のスケールの大きさに圧倒された」と語るJinふる～る 川村博さん



浪江町の花作りが 世界をつなぐ!! 花農家 ベトナム視察

浪江町の花農家Jinふる～るさんが、ベトナムの花づくりの現場を視察しました。今回の訪問は、ベトナムの花農家が日本での研修の一環として浪江町を訪れ、「トルコギキョウといえば浪江町のJinふる～るさん」と圃場を見学したことがきっかけで実現したものです。ベトナムは日本と同様に、花を日常的に楽しむ文化が根づく国で、花卉生産も非常に盛んです。なかでもトルコギキョウは人気が高く、「より品質の高い花をつくりたい」という意欲が高まっていました。視察を行ったJinふる～る代表・清水裕香里さんは、「お客様が求める花をつくるという姿勢は万国共通。国は違っても同じ目線で、とても有意義な意見交換ができました」と話します。

浪江町で育まれてきた繊細で高品質な花づくりの技術が、国境を越えて評価され、交流へとつながった今回の取り組み。浪江町の花づくりは、いま地域の枠を超え、世界へと広がり始めています。

What's new? 浪江の旬な情報をお届け!

What's new 01 東日本大震災の発生から15年 「さすが浪江」と言われる取り組みをこれから



川村さんのトルコギキョウは
2014年に初出荷されました。

東日本大震災から15年。震災後、浪江町での花作りを切り拓いてきたパイオニア・川村博さんは、いままなお現場に立ち続けています。「その時、その時で課題は変わる」。そう語る言葉のとおり、状況の変化に向き合いながら、いままも新たな挑戦を重ねています。これからも「さすが浪江!」と言われる取り組みを続けていきたいと言う、川村博さん。今後とも浪江町の農業への応援をお願いします。

What's new 02 ロスフラワーに命を吹き込む!



浪江町の花農家Farm Eolicaさんでは、ロスフラワー（規格外や端材として廃棄されてしまう花）の販売をスタートしました。「ロスを減らしたい」という想いに共感が広がり、お客様の間でも少しずつ支持を集めています。この取り組みは、単なる販売にとどまらず、花の背景にあるストーリーや価値を届ける試みでもあります。花を通じて浪江町と全国の消費者をつなぐ、大切な接点として広がりを見せています。



Eat at the local Namie Town.

味わってみよう!

浪江町産

いま、新たな取り組みとして、農産物を活かした加工品や、他の分野とのコラボ商品が次々と生まれています。今回は、浪江町のお土産にもピッタリな6次化の新商品を紹介します!

浪江町産農産物、6次化ぞくぞく!



サムライガーリックで知られる株式会社ランドビルドファームさんは、有名シェフを監修に迎えた『SAMURAI GARLIC ENERGY COLA』の販売を開始。続いて、6次化に積極的に取り組むエゴマ農家・オオタカ農業さんが、「なみえの風」ブランドとしての新商品『えごまぐず餅』を発表しました。さらに、オリーブオイルやオリーブの塩漬けを手がけるノアのオリーブ園さんからは『オリーブ茶』も登場。地域の農産物を活かした個性豊かな商品が次々と生まれ、ここでしか出会えない味やストーリーが詰まった、浪江町ならではの6次化商品が揃っています。



開発した新商品は、積極的にイベントや商談会などでPRしています
写真(左)オオタカ農業さん、(右)ノアのオリーブ園さん